

新潟市の中学校で実施した「マイ・タイムライン教室」が新潟日報に掲載

日本防災士会・新潟県支部 新潟地区幹事 古俣和博

【日時】 令和3年7月の総合学習(50分授業×3回)

【対象】 新潟市内の中学校1年生1組～3組(約102名)

【講師】 新潟県支部 防災士 6名

【内容】

「新潟県:マイ・タイムライン教室」を利用しての総合学習が新潟日報に掲載されました。

新潟県支部防災士の6名が3クラスの講師を務め、中学校区の地理的特徴や過去の災害履歴から想定される災害リスクについての授業をしました。

GIGAスクール仕様(生徒各自のIPadを利用)で授業を行い、「NHK 防災・減災情報」「キキクル」や「新潟県河川情報」を使用しての災害情報の取得方法を生徒全員で確認しました。

※「新潟県:マイ・タイムライン教室」の使用について、日本防災士会・新潟県支部は、新潟県の承諾を得ています。

「新潟県:マイ・タイムライン教室」(<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kasenkanri/niigatamytimeline.html>)

【新聞記事】(令和3年8月17日新潟日報14面)

水害対応 時系列で

水害や土砂災害に備えて取るべき行動を事前に整理する「マイ・タイムライン」の作成に、新潟市西区の小新中学校1年生約100人が取り組んだ＝写真＝。避難場所や向かうタイミングを検討し、各自がオリジナルの避難計画を作った。

防災士が参加した総合学習の一環。3回のうち最終回となった7月の授業では、地域に過去に起きた災害や行政が発表する警戒レベルといったこれまでに学んだ内容を踏まえ、避難時の注意点などを4～5人のグループで検討した。

仕上げのマイ・タイムライン作成では、自宅の浸水

行動計画作り

西区
小新中

リスクを考慮して、避難開始のタイミングに「避難指示」の一つ手前の「高齢者等避難」を選んだり、避難場所を小新中、移動手段と時間を「徒歩3分」などと記入したりしていた。

校区は信濃川につながる西川が通る。市洪水ハザードマップによると、同中は浸水深3～5mの区域となっている。飯島湊さん(13)は「家や学校などのリスクが分かった。家族でも共有したい」と話した。

